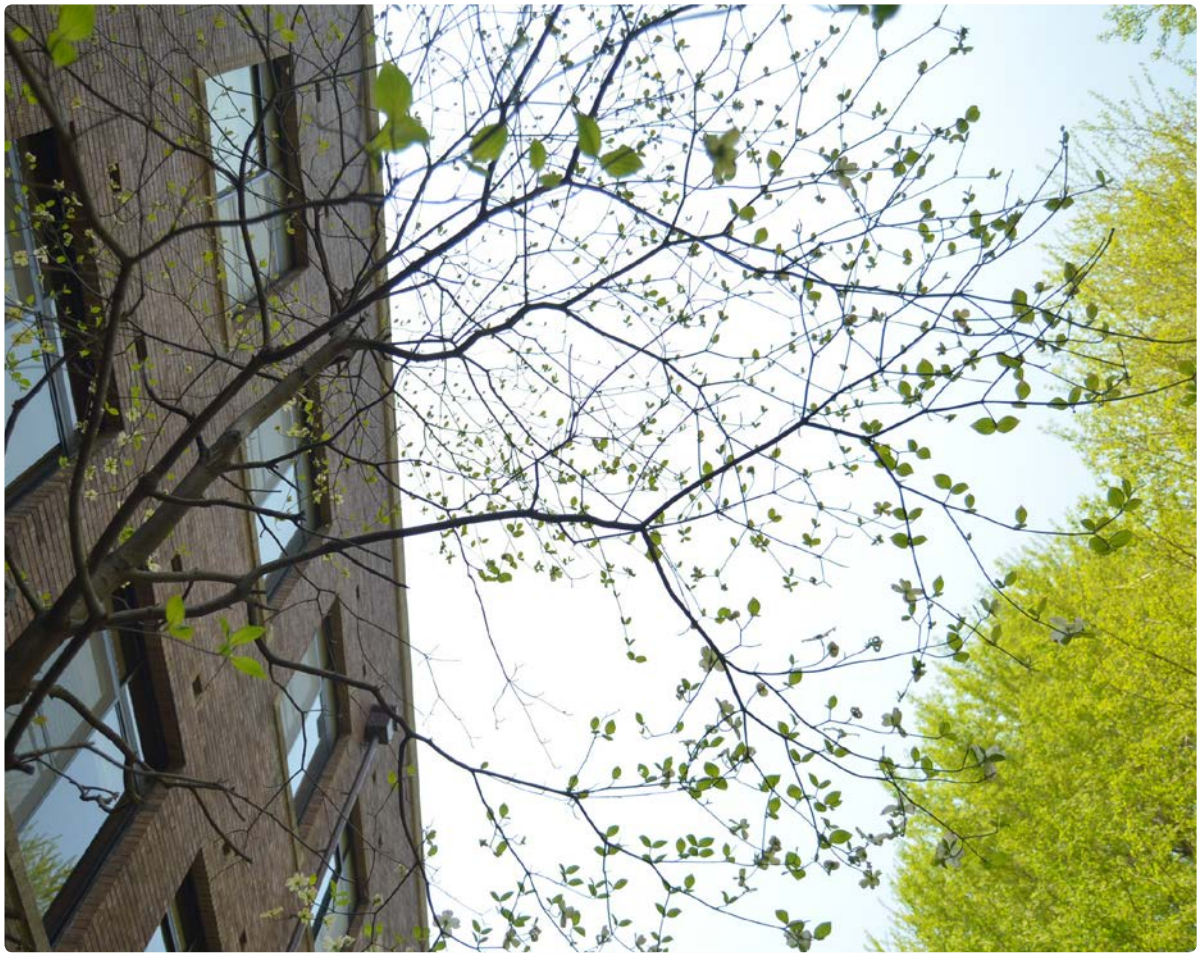
OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報　第247号　2016年2月1日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2016



写真：村田 美七海

世界の女性たちの希望の星として

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ…… 1-2
創立140周年記念式典を終えて

学生のアクティビティ…… 3-4

教員紹介…… 5
● 長澤 夏子先生
（基幹研究院自然科学系准教授）

卒業生紹介 …… 6
● 萩原 明子さん
（文教育学部舞踊教育学科卒業）

附属学校園からのお知らせ…… 7-8

キャンパス点描…… 9-10
● 創立140周年記念式典・記念事業報告

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

創立140周年記念式典を終えて

資料写真：お茶の水女子大学 図書館

2015 年 11 月 29 日は、本学の創立140 周年記念日でした。当日は、澄み渡った青空の下、内外の多くの皆さまにご列席頂き、記念式典を共にお祝い頂くことが出来ました。馳浩 文部科学大臣（代読・土屋定之事務次官）や、わが国の教育の発展と教育者養成のために本学と共に歩んできた筑波大学（元・東京高等師範学校）の永田恭介学長、ストラスブール大学のキャサリン・フローレンツ副学長、ケンブリッジ大学ニューナムコレッジのキャロル・ブラック学長、また、本学の同窓会である桜蔭会の内田伸子会長から、本学のこれまでの歩みへのご評価と、未来へのご期待について、温かなご祝辞を頂きました。そして、日本と本学の教育や研究の発展のためにご尽力下さった元・文部科学大臣の遠山敦子さま、日本とフランスの大学や研究機関との架け橋として長年にわたってご尽力下さり、特に本学の学生や研究者のフランスでの活動を支えて下さった中谷陽ーストラスブール大学協約教授、マリークレール・レット ストラスブール大学教授に、本学からの名誉博士称号をお受け頂きました。また、本学にお心をお寄せ下さり、多額のご寄附などを賜りました個人と団体の皆さまにお礼を申し上げる機会を持ちました。

最後に、2001 年に本学初の女性学長となられた本田和子（ますこ）先生から、ご講演を頂きましたが、本学への愛に溢れ、機知に富んだ本田先生のお話から、出席者は大きな感動を頂きました。その一部を、是非、皆さんにご紹介したいと思います。ひとつは、ワンガリ・マータイさんに名誉博士号をお受け頂いたときのお話、そして、本田先生が本学の学生でいらっしゃった頃にご一緒された上級生の方のお話です。

ワンガリ・マータイさんを、皆さんはご存知ですね。ケニア・ナイロビ大学で初の女性教授となられた生物学者ですが、「開発」の名の下に進められる環境破壊と、開発の恩恵からはじき出される人々を目の当たりにして、それをきっかけに環境保護活動に踏み出し、1977 年に「グリーンベルト運動」を創設しました。この運動は、植樹という環境保護活動を通じて、農村地帯の女性たちに仕事を与え、女性の地位向上、貧困撲滅、民主化促進などを展開するものでした。マータイさんが亡くなる 2011 年までに、延べ 10 万人以上がこの運動に参加し、植えられた苗木は 4500 万本にも上るそうです。この地道な活動によって、2004 年にアフリカ人女性として初のノーベル賞（平和賞）を受賞されました。2005 年に毎日新聞社の招待で訪日され、日本の「もったいない」という考え方に共鳴されて、世界中で「MOTTAINAI キャンペーン」を推進された方としても知られています。この方に、本学から名誉博士号を差し上げたいと、毎日新聞社の知り合いの方を通じてお願いを致しました。数多くの大学からオファーがあったそうですが、マータイさんは最初にお茶の水を選んで下さいました。その際にマータイさんは、「お茶の水は、日本が近代国家になるときに政府が創設し、国が国民の税金で運営してきた古い大学だと聞いています。日本という国は、政府も国民も、女性の教育を大切にしているようです。女子教育のために頑張っているお茶の水は、これから女子教育を始めようとしている私たちのような国々にとっては “希望の星” なのです」と仰って下さいました。残念なことに、マータイさんは 2011 年に 71 歳で亡くなられましたが、アフリカの人々のため、世界の人々のため

に生涯をささげた素晴らしい女性ワンガリ・マータイさんから、私たちは多くの学びを頂きました。

また、マータイさんが仰って下さった“希望の星”という言葉から思い出されて、本田先生の上級生の方のお話もして下さいました。先生は東京女子高等師範学校に入学され、途中で新制大学に変わったお茶の水女子大学を卒業されましたが、その頃にご一緒された3期上の方のお話です。当時の女性たちの多くは、若い男性たちが軍人として戦場に赴いてしまうため、高等女学校を卒業するとすぐに17～18歳で結婚するのが常でした。その方も、高等女学校を卒業してすぐに結婚されたそうですが、その後僅か3ヶ月でお相手が召集され、特攻隊員として南の海で戦死されました。17歳で戦争未亡人となったわけです。その方は絶望の淵に沈まれて、出口のない暗闇で悲しんでいらしたそうですが、その中で、ふと東京女子高等師範学校で学ぶことを決意され、そこに“希望の光”を見出されたとのことでした。そのことを通じて、本田先生は、本学が女性の自律を支え続けて来たことに深く想いを致されたと仰いました。本学が、悲しみに沈んでいる方が立ち直るきっかけともなり、その後の有意義な人生を作るための学びの場となったことは、何にも変え難い嬉しいことです。そして、本学が、これまで多くの女性たちの希望の光となり得たこと、そしてこれからも希望の星となり得るだろうことを、本田先生はお話し下さいました。本学には、様々な役割が期待されて居ますが、希望の灯火を掲げ続けることが、本学の大きな使命であることは、忘れてはならないことだと思います。

20世紀は戦争の世紀とも呼ばれ、2つの世界大戦は、世界中の多くの人々の命を奪い、残された人々を悲しみと後悔の淵に投げ込みました。どんな理由を言い立てたとしても、人と人とが殺しあうようなことは決してあってはならないことです。世の中に「正しい戦争」や「正義の戦争」というものはないのです。

地球上で生きる生物の中で、人はその進化の過程で、唯一、倫理観や使命感といった「理性」を持ち得た生物です。理性によって様々な衝動を抑え、優れた思考力と判断力によって、人々の幸せを願い、平和な生活を実現することができる生物です。人々が幸せに暮らせる社会を作るために、私たちができることを考え、世界の人々が共に生きるための努力を続けて行きたいものと思います。

本田先生のお話を通じて、私たちが争いのない穏やかな日々を過ごし、愛と信頼で結ばれた人々との生活を慈しむことの大切さを、心に刻んだ時間でした。馳大臣のご祝辞にも、「お茶の水女子大学は、社会に向けて様々なメッセージを発信する、活力と革新性あふれる大学」とのお言葉がありました。私たちは、これまでの140年間で築いてきた女子教育の基盤を大切に、常に日本や世界の人々の幸福のために何ができるかを考え続け、学びと研究を深めて、これからの140年に向かって誇り高く存在し続ける大学でありたいと決意を新たにしています。

2016年2月
学長　室伏 きみ子

学長からのメッセージ
創立140周年記念式典を終えて

学生のアクティビティ

サークル特集 2016

勉強に一生懸命なら趣味にも一生懸命なお茶大生。今回はそんなお茶大生にインタビューしてきました！ サークルってどんな活動をしているの？ 内容も規模もバラバラな３つのサークルを紹介します！

ジャズダンスサークル flow

基礎データ

部員：約 60 人
活動：水・日
場所：学校または学校周辺

年間スケジュール

- 春 姉妹サークルとの合同公演 …… 4月
- 春 新入生との公演 …… 6月
- 夏 自主公演 …… 8月
- 秋 徽音祭 …… 11月
- 冬 コンテスト …… 12月

そのほか、お花見や納涼船、運動会など様々なイベントも企画しています！

初心者大大大歓迎！
みんなでひとつのものに
向かって頑張る一体感が
大好きです！

坂井 志穂 さん
文教育学部言語文化学科３年

活動紹介

優しいインストラクターの指導のもと練習をしています。自主公演はプログラムから衣装まで全部自分たちで作っています。初心者の人も楽しく活動できます！

flowの魅力

舞台に立って照明を浴びて拍手もらって、みんなが笑顔で踊っている瞬間が好き、やみつきです。みんなといるだけで楽しいです！！

新入生へひとこと

イベントごとに練習などで一緒にいる時間が多く、みんな仲良しです！ とても温かいサークルです！

英語

2016 年度から
少数精鋭で頑張

大友 久代 さん
文教育学部人文科学科

活動紹介

国際的な社会問題について英語で議論しています。英語力も上がるし、国際問題についても幅広く扱うので世界情勢の知識が増えたり、考える力もつきます！

英語ディベート部の魅力

大会に出場している海外の人との交流ができます。
人前でしゃべるのは苦手だったけど、大会を積み重ねることで克服できました！
同時通訳の力も身につきます。

お茶の水女子大学公認サークル一覧

●弓道部 ●陸上競技部 ●空手部 ●華道部 ●バスケットボール部 ●フィギュアスケート部 ●硬式庭球部 ●オレンジマニア
●TECKTECK ●ピアノ班 ●Ochas ●E・S・S ●氷川下こども会 ●バドミントン部 ●裏千家茶道部 ●表千家茶道部
●ジャズダンスサークル・flow ●美術部 ●写真部 ●能楽研究会 ●剣道部 ●バレーボール部 ●日本舞踊研究班 ●ギター部
●経済研究会 ●山岳愛好会雷鳥 ●緑会合唱団 ●文芸集団「青い花」 ●SF研究会 ●お茶の水管弦楽団 ●考古学研究会
●児童文化研究会しいのみ ●合気道部 ●狂言研究会 ●サイクリング部 ●箏曲部 ●白ばら会合唱団 ●百人一首同好会
●民族舞踊研究会 ●LBJスキーチーム ●漫画研究会 ●劇工舎プリズム ●囲碁部 ●ミュージカルカンパニー MMG
●国際インターンシップサポートサークル ●モダンダンス部 ●英語ディベート部（2016年4月に公認予定）

狂言研究会！

狂言は、中世のコメディーです。
今しかできない貴重な体験をしています！

白鳥 翔子 さん
文教育学部人文科学科２年

基礎データ

部員：約 20 人
活動：火
場所：学校

活動紹介

日本の古典芸能である小舞や狂言を練習しています。月に１～２回プロの先生に教えていただきます。蝉の会や徽音祭だけでなく、文京区や北区での発表会にも参加しています。

年間スケジュール

- 春 蝉の会（都内近郊の狂言サークルとの合同発表）……5月
- 夏 野村万作先生宅で衣装の虫干し……8月
- 文京区での発表会……9月
- 秋 北区での発表会……10月
- 徽音祭……11月
- 冬 野村万作先生宅の掃除……12月

年に数回、京都の大学と合同合宿を行っています！

狂言研究会の魅力

年に数回野村万作先生のお宅に伺います。歴史ともかかわりが深く、とても勉強になります。着付けが自分でできるようになります！

新入生へひとこと

みんなゼロからのスタートです。わたしは新歓で初めて狂言の発表を見てその魅力を知りました。自分には無理かもしれないと思ったみなさん、ぜひ一度見学にいらしてください！

ディベート部

公認サークル
っています！

基礎データ

部員：10 人
活動：月・水
場所：学校

２年

年間スケジュール

- 春 エリザベス杯……4月
- 若葉杯（新人戦）……6月
- 夏 夏ADI in Korea（セミナー）…8月
- 秋 マリカ会
- 冬 鍋パーティ

新入生へひとこと

ゲーム感覚でも楽しめるし、英語力を身につけたいという人にオススメです！
留学を考えている人が多いのも特徴です。

編集後記

ご協力いただいたサークルの皆様、ありがとうございました。思わず参加したくなるような素敵なお話を聞くことができました。内容はもちろん、一緒に楽しむ大切な仲間ができることがサークルの大きな魅力なのですね♪ご自身のサークルの良さを語る皆様からは、サークルが好き！という気持ちがすごく伝わってきました。

文責：文教育学部4年　山口 ゆみ
生活科学部4年　沖田 百世
理学部3年　金子 紗梨

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系准教授長澤夏子先生をご紹介します。長澤先生は大学院ではライフサイエンス専攻人間・環境科学コース、学部では生活科学部人間・環境科学科にご所属です。

住まいの環境を良くすることで健康維持増進の効果も期待できるのです。

Nagasawa Natsuko
長澤　夏子

Q まず始めにご出身、ご経歴などについて教えてください。

子供時代は京都の伏見で過ごし、中学からは千葉で育ちました。暗記科目に苦手意識があって理系に、また芸術にも関心があったのでデッサンの試験がある早稲田大学の建築学科へ進学しました。子供時代には近所の醍醐寺の境内が遊び場でしたが、そこの五重塔が京都最古の木造建築物だと日本建築史の授業で知り、火災や戦禍、地震などにも耐えたことに驚きました。当時、早稲田の建築学科の女性は2割程度でしたが、理工系は男女を問わず大学院への進学率が上がっていて、私も進学しました。卒論、修論では、建築を使う人や新しい空間に関わるテーマならなんでも良く、先生や研究室の人と議論をしながら研究を進めるのが楽しく、またその他にも設計コンペやプロジェクト研究など大学での活動に没頭していました。また学会発表だ、研究室の合宿だ、建築の見学だ、など理由をつけては、友人や先輩後輩とあちこち旅行に出かけていました。博士課程を終えてからは、子育てをしながら出身の研究室に研究員として在籍し、非常勤で設計教育を行ったり、また建築プロジェクトや調査研究を担当していました。その後、早稲田大学 先端科学・健康医療融合機構(ASMeW)に籍をうつし、建築以外の医学・ナノサイエンスなど異分野共同の研究プロジェクトに従事しました。そして2015年4月に縁あってお茶の水女子大学に赴任しています。

Q 先生のご専門は何ですか？

専門は建築計画学という、人の行動や身体・心理に適した建物を設計するための研究分野です。建築や環境の設計を行う時に、ユーザーにとって良いデザインとなるようにと考えていますが、どういったデザインが「よい」のかを考えて、調査や実験を通して工学的な裏付けを得る研究をしています。使いやすさや、健康性、安全性、見やすさ、美しさ、間違えにくさ、負担の小ささ、など様々な観点で評価して、よりよいデザインや設計を提案するものです。これらの評価は人によって違うこともあります。健常者にとって都合がよくても他の人にとっては使いにくい、あるいは、使えないということがあります。私たちは毎日、様々な建築の中で暮らしていますので、様々な人にとっての日常生活環境についての問題を取り上げて、それを改善するデザインや方法論を研究しています。

また建築や都市は作られたあと長期間使用するものです。ですから将来的に必要になる機能を構想することが必要です。たとえば人口が減り高齢化が進む日本で、今後必要とされる住宅や生活環境として「高齢者、弱者、健常者それぞれについて、長く健康を維持できる住まい」「省エネでも居心地よく暮らせる環境」などをテーマに研究しています。フィールドとしては、住宅のほか、ショッピング施設や福祉施設、美術館、都市など様々な場所を取り上げています。

Q 研究の内容と、なぜそのような研究をするようになったのか、教えてください。

美術館やデパートでの観覧者の行動を追跡調査したりビデオ観察したりして、行動パターンや、どこでリラックスしているかなどを調べ、環境による行動のモデルを作成しています。建築家の方から、実際に設計中の美術館やデパートの図面を見せられ、この設計だと人はどう動くだろうかと質問されることがあります。入口の位置や、通路のつながり、店舗位置などから、実際の美術館やデパートの行動を調べることで、買い物などの行動のパターンを明らかにできれば、これから設計する建物での行動が予測できて設計案をよくすることができるのです。大学生の頃に、デパートや美術館や街中に出て、実際の人を観察して研究になるなら楽しくていいなと思って始めました。

住まいについては、5,000名の女性を対象として、住まいの満足度と、ストレス、身体の痛みや負担など、健康と住まいの関わりについてアンケートも行いました。住まいの満足度があがると、ストレスが減り、痛みが減る、といった因果関係があることがわかりました。日常生活の環境が身体や心理にも影響を与えるので、住まいの環境を良くすることで健康維持増進の効果も期待できるのです。

Q お茶大生へ向けてのメッセージをお願いします。

お茶大は都内で、たいへん便利な場所にありますので、授業ではグループで新しい建物を探してリサーチしてもらったり、また私も一緒に見学に出かけたりしています。東京近郊には、美術館やホール、青山界隈の商業施設など、世界的に有名な建物もたくさんあります。街歩きなどは、思わぬ発見がありとても楽しいですから、大学の友人とあちこち出かけてみてください。

文責：基幹研究院自然科学系 准教授
飯田 薫子

卒業生紹介

母子保健で世界の平和を！
～生命を大切にする社会を、女性の視点から～

独立行政法人
国際協力機構（JICA）
国際協力専門員（保健）/
人間開発部課題アドバイザー

Hagiwara Akiko
萩原　明子

神奈川県出身
1986年お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業
1988年同大学院修士課程修了（人文学修士）
1988年から1992年まで、フルブライト奨学生として渡米。米国オハイオ州立大学博士課程修了　Ph.D.（ヘルスプロモーション・健康教育）。
JICA長期専門家（業務調整・公衆衛生）スリランカ・ペラデニア大学歯学教育プロジェクト、JICA長期専門家（参加型啓発IEC）ヨルダン人口・家族計画・WIDプロジェクト・フェーズ2、等を経て、2005年8月より2009年6月まで、JICAパレスチナ母子保健プロジェクト、チーフアドバイザー
2008年10月より現職。

萩原明子さんは、1986年にお茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科（現・芸術・表現行動学科舞踊教育学コース）を卒業後、本学大学院に進学し人文学修士を取得。フルブライト奨学生としてオハイオ州立大学に留学し、ストレスとストレス症状における文化的差異をテーマに博士論文を書き博士号を取得された。学部生の頃から国際協力に強い関心を持ち、日米学生会議にも参加。同会議で出会った男性と結婚され、博士号取得後に日本で長女を出産する。その後、夫の海外赴任に随伴し海外で子育てをする一方、自らもJICA専門家としてスリランカやヨルダンで地域保健や保健行政のマネジメントや保健教育を行うようになった。現在は、JICAの保健分野の国際協力専門員として、東京をベースに世界中の母子保健分野への協力を行っている。

母子手帳を世界に

萩原さんのライフワークとなったのは、パレスチナでの母子手帳の協力だという。紛争に翻弄される妊婦に母子手帳を配布し、政府や住民と一体となって、妊婦健診、乳児健診などを普及させた。パレスチナ母子手帳は、2008年からパレスチナ自治区西岸地域で、そして2010年からはガザ地区でも使われ、「生命(いのち)のパスポート」と呼ばれている。母子手帳はシリア、レバノン、ヨルダンのパレスチナ難民キャンプにも普及している。

シリアから避難するパレスチナ難民の母親のバッグに母子手帳が…

シリアからヨーロッパ諸国へ難民が避難していることは、メディアでも報道されている。こうした難民の母親の小さなバッグの中に、萩原さんたちが作成した母子手帳が大切に保管されていた。長旅の果てに異国の地で出産・子育てに直面する母親にとって、萩原さんたちが配った母子手帳は、母と子の記録として、言葉の通じない地域で暮らすことになった母子の命綱となる。萩原さんは、自らの活動が母子を支えていることを実感すると共に、国を追われて不安定な状態にある母子に思いをはせる。すべての母子が尊重され安心して過ごせる社会、それが萩原さんの目指す平和な社会だという。

助産師、保健師が守る母子の健康

アフリカの村落では、医療施設も医療人材も不足している。村落でも、安全なお産を実現させるため、スーダンでは村落助産師が育成されている。萩原さんたちは、スーダン全国の5000名以上の村落助産師の現任研修を実施、研修を受けた助産師は、年間10万件以上のお産を介助しているとのことだ。研修後、助産師の多くは公務員として雇用され、村人からも尊敬されるようになり、女性の権利向上にも貢献したという。ガーナの村落には、日本の無償資金協力として64か所もの駐在保健所を建設し、保健師の育成、配置を進めているそうだ。

母として女性として

萩原さんは17歳と22歳の娘さんを育てながら、10年にも及ぶ家族での海外駐在、毎年5-6回もの海外出張をこなしてきた。過酷なキャリアの最大の理解者であり、支援者であった夫を10年前に病気で亡くされたことは、人生最大の試練であったことだろう。シングルマザーとして働く萩原さんを支えたのは、ママ友をはじめとする周囲の女性たちだったという。娘さんたちは、お母さんが本学で身体表現を専攻しダンスに汗された学生時代のように、幼い頃からクラシックバレエを熱心に続けている。先日も、娘さんたちのバレエの舞台が終わったばかりで、本番の舞台を観て感涙にむせたと話されていた。娘さんたちと一緒に歌舞伎を観に行くのも楽しみだという。地球規模のお仕事をこなしながらも、娘さんたちの活躍を話される萩原さん。その横顔は、母の優しい愛に満ち溢れていた。

後輩のお茶大生の皆さんへ

最後に、お茶大の現役学生たちにメッセージをとお願いしたところ、開口一番「様々な立場での女性リーダーをめざして欲しい」と言われた。途上国で母子保健の協力を続けてきた萩原さんは、女性の視点こそが、平和な社会を実現させると強く信じている。行政、職場、地域社会など様々な場面での女性の指導力が欠かせない。お茶大の卒業生には、そうした未来を牽引する活躍を期待されているのだろう。本学の卒業生が萩原さんに続く女性リーダーとして輝くことを期待する。またしなやかに逞しく活躍する萩原さんたちの活動により、一組でも多くの母子が幸せになることを祈念する。

インタビュー・文責：基幹研究院人文科学系
准教授 水村 真由美

わたしのオフタイム

アフリカの地方出張ではシャワーも満足に出ない場所に宿泊することも珍しくない萩原さんにとって、ご自身の心身の健康維持はキャリア上も欠かせない。出張のスーツケースには、いつもヨガマットが入っている。最近流行りのラテン系フィットネス「ズンバ」に興じ、フェルデンクライスメソッドというコンディショニング法にも定期的に通って、自分メンテナンスをするそう。母子保健のエキスパートは自分の健康管理も抜かりなかった。

https://www.youtube.com/watch?v=7XR5r1KPBZ8&feature=youtu.be　内閣府政府広報室による萩原さんの海外向けCM
http://www.jica.go.jp/publication/j-world/1102/pdf/tokushu_04.pdf　「手帳がはぐくむ希望 パレスチナ自治区」JICA's World 2011年2月号

附属学校園からのお知らせ
附属高等学校便り

附属高校生は学内外で元気に活躍しています。

附属高等学校の生徒たちは、学業に励む傍ら、輝鏡祭（体育祭・文化祭・ダンスコンクールの総称）をはじめとする学校行事にも全力で取り組み、忙しくも充実した毎日を送っています。さらに、学外の様々な企画やコンクールなどにも積極的に参加し、活動の幅を広げています。

そうした活動の一つに「全日本高校模擬国連大会」があり、今年も本校から応募した２チームが予選を通過し、模擬国連大会に参加しました。今号の附属高等学校便りでは、フランス大使として参加した生徒の報告をご紹介します。

第９回全日本高校模擬国連大会に参加して

2015 年 11 月 14 日と 15 日の２日間、私は国連大学で開催された第９回全日本高校模擬国連大会に、チームメイトとともにフランス大使として参加しました。部活動として日ごろから活動している高校生が多い中、私たちはＳＧＨ（スーパーグローバルハイスクール）の取り組みの一つとして活動しました。予選課題の作成から始まり、４ヶ月ほどの間、議題の背景や、担当国であるフランスと国際連合の基礎情報及び議題に対する立場や方針、またそれに基づいたフランス大使としての政策の作成など、提出期限に追われる忙しい毎日を過ごし、模擬国連大会当日を迎えました。

大会当日は、今年の議題である「国際移住と開発」に対して、頭脳流出・非正規移民・移民が直面している困難への対応という３つの論点において国際移住のプラスの影響を最大に、マイナスの影響を最小にすることで持続可能な開発を達成する議論を行ない、立場や利害が対立する他国と交渉を重ねました。ここでの交渉とは、自国が提案する政策と他国の政策を共有し、折り合える点を探しながら、できるだけ多くの国と利害関係を一致させていくというものです。

初めは、チームメイトと分担して、移民受入国を主としたEU諸国と、移民送出国を主としたAU諸国の２箇所で並行して交渉を行いました。議論の末に利害関係がある程度一致したため、EUとAUという大きなグループでの決議案作成に向けたより緻密な交渉を行い、１日目の成果としてAU及びEUグループでのワーキングペーパーを提出することができました。最終的な決議文につながるワーキングペーパーは、全体で７つ提出されましたが、私たちのワーキングペーパーは、スーダン大使を中心として根気よく交渉を行ったためか、移民受入国・送出国ともに納得のいくものになりました。また、私がフランス大使として目指していた、移民労働者の労働力を活用することでより経済を発展させるための政策や移民の分散といった政策を、形を変えながらも文言に組み込むことができました。

大会２日目は、主に他のグループとの

コンセンサスを目指すために交渉を重ねました。結果として、イラン、そしてバハマを中心としたグループと合意することができ、決議文を作成して提出をしました。しかし、他のグループとは交渉する時間が足りず、参加国全体で完全なコンセンサスを作ることはできませんでした。最終的に決議文は３本提出され、その全てが可決されるという結果をもって大会は終了しました。

今大会を終えて感じたことは、高校生の可能性と限界です。高校生でも論理的に交渉を進め、国際的な問題を解決することができる可能性が秘められていることを実感した一方で、知識量や経験の差から現実まで辿り着かず理想で終わってしまう限界を知りました。これは大会当日に特別講演をしてくださった方の言葉ですが、10 年後は私たちが世界を担っていく番です。だからこそ、それまでの間に、少しでも多くの人の幸せのために、移民問題に限らず、未だ世界に蔓延る根深い問題を解決することができるような力をつけていきたいと思います。

お茶の水女子大学附属高等学校 2 年
髙久 茜

附属学校園での出来事（2015年10月～12月）

【いずみナーサリー】

10月
- 写真上映保護者会
- 避難訓練（火災）
- 離乳食・おやつミーティング

11月
- いずみナーサリー同窓会
- COSMOS・ECCELL共催企画「子供の世界を見てみよう」

12月
- クリスマスあそび

【附属幼稚園】

10月
- 附属校園PTA連絡委員会主催講演会
- 避難訓練
- 運動会予行
- 運動会
- 誕生会
- ４歳児親子で遊ぶ日
- サツマイモ掘り
- ３歳児遠足（小石川植物園）
- ４歳児保護者子育て懇談会 講師 スクールカウンセラー永里先生
- ５歳児による協同的な活動「あきまつり」

11月
- 「あきまつり」２日目
- 誕生会
- 避難訓練
- 筑波大学附属大塚特別支援学校幼稚部の子どもたちとの交流
- 創立記念の集い

12月
- 誕生会
- 餅つき
- 終業式

【附属小学校】

10月
- 衣がえ
- 避難訓練
- 附属校園PTA主催講演会
- たてわり給食
- 学校宿泊（３年）
- 中西部アフリカ幼児教育研修会参観
- 校外学習（4年：鶴ヶ島）
- かがみ会バザー
- サツマイモ掘り（3, 4年）
- 秋祭り（1年）
- 留学生との交流会（6年）

11月
- 校外学習（３年：埼玉工場見学等）
- 避難訓練
- 音楽会
- ダイコン掘り（2, 5年）
- 保護者会（各学年）

12月
- 終業式

【附属中学校】

10月
- 附属校園PTA主催講演会
- 前期期末テスト
- 前期終業式
- 秋休み
- 後期始業式
- 身体測定
- 保護者参観週間
- 生徒会選挙

11月
- １年郊外園（サツマイモ収穫）
- 避難訓練
- 中間テスト（3年）
- 創立記念日

12月
- 中間テスト（1, 2年）
- マラソン大会
- 終業式

【附属高校】

10月
- 附属校園PTA主催講演会
- ２年生 卒業生による進路講演会
- 秋季身体計測
- 自治会総会・選挙
- ２学期中間考査
- １年生農場実習（サツマイモの収穫）
- SGH　海外研修（台北）
- 理系女性教育共同開発機構 海外研修（台北）
- ３年学力テスト
- ジョイントフォーラム2015（大学の国際交流イベント）参加

11月
- ダンスコンクール
- ３年学力テスト
- ２年学力テスト
- 全日本高校模擬国連大会
- 公開教育研究会
- 第2回保護者授業参観
- 創立記念日

12月
- ２学期期末考査
- 2年SGH自国文化理解講座　文楽鑑賞
- 1年SGH自国文化理解講座　歌舞伎鑑賞
- 地理・家庭科　特別授業
- 東工大　ウィンターレクチャー
- 終業式

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描 ―― 創立 140 周年記念式典・記念

2015 年 11 月 29 日(日)にお茶の水女子大学創立 140 周年記念式典が盛大に挙行されました。記念式典は、文部科学省事務次官をはじめ各界から多くの来賓を迎え、伝統の息づく徽音堂で厳粛に執り行われました。

土屋 定之　文部科学事務次官

永田 恭介　筑波大学長

Catherine Florentz 氏
(ストラスブール大学副学長
研究及び博士課程担当)

内田 伸子　桜蔭会会長

はじめに、文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コース合唱団による校歌斉唱があり、室伏きみ子学長が式辞を述べられました。その後、文部科学大臣ご祝辞（土屋定之文部科学事務次官代読）を賜り、続いて、永田恭介氏（国立大学法人筑波大学長）、Catherine Florentz 氏（ストラスブール大学副学長）、内田伸子氏（桜蔭会会長）からご祝辞をいただきました。

その後、名誉学友記・感謝状贈呈が行われました。これは、本学の発展に関して多大なご支援をくださった方々に、感謝を申し上げることを趣旨に平成 16 年に設けたものです。

また、名誉博士称号授与では、遠山敦子氏、中谷陽一氏、Marie-Claire LETT 氏に名誉博士称号が授与され、一言ずつ、ご挨拶をいただきました。名誉博士号は、学術文化の発展、国際的文化交流について特に顕著な貢献があった方、本学の教育研究の発展に関して、その功績が特に顕著であった方などに授与させていただくものです。

さらに、本田和子名誉教授（本学元学長）から「140年のあゆみを振り返る」と題して特別講演を賜りました。講演終了後、卒業生をはじめとする式典参加者には、感動で涙を流す姿が見られるほどの、大変貴重なお話を聞かせていただきました。

小春日和の穏やかな初冬の一日、記念式典はつつがなく執り行われ、140 年の歴史と伝統を踏まえ、次の 140 年へと新しい歩みを刻む記念すべき日となりました。

式典に先立って前日の 11 月 28 日に行われた記念事業は、午前の部と午後の部に分けて開催されました。午前の部では、室伏きみ子学長の挨拶にはじまり、本学歴史資料館担当から本学の歴史について紹介がありました。続いて、本学宮尾教授から法人化後 10 年記念冊子について紹介がありました。その後、外山滋比古名誉教授による「未来をひらく」と題する特別講演をいただきました。

特別講演では、「お茶の水女子大学」という平仮名と漢字の絶妙なバランスの名前のお話から始まり、人文科学の学問に対するエール、研究における触媒という作用の重要性など、記憶に残るご講演をいただきました。

引き続き、本学の在学生による「次世代の研究者を目指して」と題したミニパネルディスカッションが行われ、盛大な拍手の中で午前の部が終了しました。

遠山 敦子氏

中谷 陽一氏

Marie-Claire LETT 氏

校歌斉唱

本田 和子　名誉教授（本学元学長）

室伏 きみ子　学長

午後の部では、本学経営協議会委員、日本科学未来館館長の毛利衛氏による「Challenging the Unknown」と題する特別記念講義をいただきました。

講義では、宇宙やエンデバー号の映像を見ながら、宇宙飛行士としての体験談を交えて科学技術の進歩についてお話をくださいました。また、室伏学長の示す大学の方向性に共感しつつ、「お茶の水女子大学にしかできないところまで教育水準を高めて欲しい」と激励をいただきました。講義に参加した本学在学生や一般来場者との間で活発な質疑応答が行われ、熱気のある特別記念講義となりました。

その後、文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コース及び舞踊教育学コースの学生による「音楽と舞踊によるパフォーマンス」が行われ、美しいピアノの音色と幻想的な舞踊に酔いしれました。

終了後、感動した、内容の濃いお話だったという声が多数寄せられました。教職員、在学生、卒業生などが相俟って、すばらしい時間を共有することができ、創立 140 周年記念事業は大盛況のうちに幕を閉じました。

外山 滋比古　名誉教授

毛利 衛氏

大学校旗

キャンパス点描

写真：村田 美七海

お茶の水女子大学学報　第 247 号
▽発行日：2016 年 2 月 1 日
▽発　行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1（〒 112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで
企画戦略課広報企画担当
電 話：03-5978-5105
FAX：03-5978-5545
E-mail：info@cc.ocha.ac.jp
URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

Copyright (C) 2016 Ochanomizu University. All Rights Reserved